

こじま信太郎 Hassin!

改革にどう挑むのか!

令和4年度 決算は黒字化

令和3年度の予算では、234億円の収支不足が想定されていたところ、令和5年度の予算では収支不足がゼロに改善したことが示されていました。更に、その前年、令和4年度の決算が発表されたところ、**77億円の黒字**が明らかになりました。

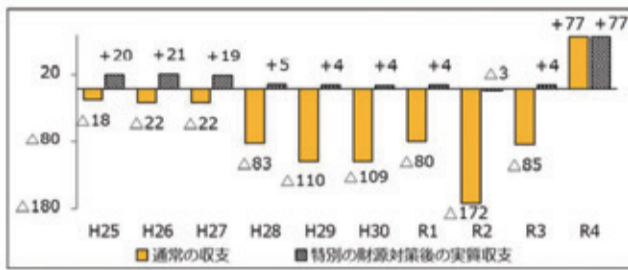
コロナ禍による収支減で、毎年200億円の赤字と、それに伴う基金^(※1)の取り崩しにより、10年以内に国から財政再生団体=“財政破綻のレッテル”を貼られてしまう危険があるとされてきましたが、わずか2年で財政は格段に回復しました。

他方で、当初、改革を行っても収支改善に10年はかかるとされていたことから分かるように、黒字化の背景には、収支減→想定外の収支増と、自治体にとって有利な国交付税という外的要因が大きいともいえます。また、根幹的な収支構造が黒字化しているか、これまで取り崩した基金を積み戻さなければいけない等の課題も残しています。

黒字化した決算に向き合って決心すべきは、**今こそ改革を徹底しなければならない**ということです。破綻寸前の状況では、とにかく短期間に歳出削減が求められましたが、収支が改善した今、本来改革が目指すべきゴールとして、改革により削減した予算の出来るだけ多くを、今必要とされる施策の予算に付け替えなければなりません。それが、かねてから求め続けてきた「お金の使い道を変える改革」です。

1 一般会計及び全会計の収支の推移

(1) 一般会計の収支 (単位: 億円)



人口獲得大競争時代!

今向き合わなければならない**最大の課題は人口減少**です。京都市も「人口減少タスクフォース」により課題解決を目指すとしていることから、その危機感は共有されているはずですが。

人口減少に立ち向かう上で、重要なポイントは、ハード面で住む場所・働く場所の確保と、ソフト面で他都市に負けない施策の充実です。前者については、メリハリのある都市計画の見直しによる、周辺部の発展について求め、進捗を見守るところですが、後者については、自治体間で人口獲得競争が巻き起こっていることを念頭に置く必要があります。この競争のターゲットは若年・子育て世代の人口であり、京都市は若者の人口流出が明らかになっている“負け組”に甘んじています。

この競争の主戦場のひとつが子育て施策ですが、なにも京都市がここに手を抜いてきたという訳ではありません。ただ問題は、競争状況では**比較される相手が存在する**ということと、従来の**施策の効果が伝わりにくくなっている**ということです。

若年人口減少の特徴として、周辺の自治体への流出が顕著であることが指摘されています。市の施策を評価する際、比較対象とされるのは、人口規模等で一定同条件である政令市です。しかし、競争相手となっているのは、交付税等の条件面で**政令市より優位とされる中規模の一般市**です。苦しい事実ではありますが、本気で人口減少を食い止めるのであれば、**多少無理をしても施策の充実**に努めなければなりません。例えば、政令市ではトップクラスとなる子ども医療費助成(月上限200円)が実施されましたが、残り数億円の予算を捻出することで、全国トップ水準となる医療費の無償化と対象年齢の拡充が実現できます。

その他、カンバン政策である「待機児童ゼロ」や保育士等の処遇改善のための補助金(通称プール制)についても、より受益を実感できる制度への転換を求めてまいります。

子育て施策だけでなく、例えば敬老乗車証の応益負担^(※2)への早期転換など、予算削減による施策の**マイナーチェンジにとどまらない根本的な改革**に向けて、提案・質問を続けてまいります。



※1 裏面の「ふたつの基金」を参照

※2 1回あたりの乗車料金を半額や子ども料金と同等にするなど値下げするサービス。新たに始まった回数券制度より使いやすいもので、かつ、乗り放題もしくは特定区間の定期券の割引も併せて検討する必要あり。

【告知】代表質問に登壇します!

KBS 京都にて生放送!

こじま信太郎の登壇は **10月2日(月)14時35分頃**から

インターネットでもご視聴いただけます

質問内容(予定)

- ・人口獲得競争に向き合う改革
- ・まちねこ・地域交通 など

※内容は多少変更の可能性がございます



市政をまっすぐ
あなた
市民に届ける

小島 信太郎

プロフィール

- 1986年(昭和61年) 11月10日生まれ
- 衆議院議員 前原誠司 元秘書
- 産業交通水道委員会 副委員長
- 家族: 妻、長女(7歳)、長男(5歳)、猫達
- 特技: 社交ダンス、剣道(2段)、和太鼓
- 地域: 山科消防団大宅分団 班長
大宅ソフトバレーボール同好会 部長(腕前はまだまだ...)
- 好物: ラーメン、蕎麦、たこ焼き、ゴミ
- その他: 京都東山ボーイズ顧問



発行元・お問合せ先

こじま信太郎事務所

〒607-8142 京都市山科区東野中井ノ上町7-68 (東野駅徒歩8分)

TEL: 075-582-1115
FAX: 075-582-1116

E-mail: kojima.hassin@gmail.com



活動内容に関する情報をSNSを通してお届けしています。





クレジットカードで乗るっ！



京都でも、海外の方が切符を買うのにご苦労されているところを見かけるといいます。インバウンドが増加する中、クレジットカードのタッチ決済で乗車できるシステムが注目されており、福岡市営地下鉄における実証実験を視察しました。

視察前の懸念点としては、①交通系ICカードと比べて反応速度が遅いのでは？②機器の導入に多額の費用を要するのでは？というところでした。

①に関して、実際に使用してみた感覚としては、PiTaPa等と比べると反応速度は遅いものの、**不自由を感じる程ではありませんでした。**②に関しては、実証実験中は企業からの貸与とのことでしたが、改札機やその改修に比べれば機器は安価であるということと、本格導入する場合は、リースのように使用料を支払う形式もあり得るとのことでした。

また利点として、料金が後払い方式であることから、1日の上限金額の設定など、ICカードでは難しいサービスを組み込みやすいということでした。様々な企画乗車券を、実際に乗車券を発行することなく実施できる可能性もあります。

一方で課題としては、クレジットカード会社に支払う**手数料が売上**

圧迫する恐れがあるという点があります。現在も、定期券はクレジットカードで販売されているので、その範疇で取れば更なる売上減少になりませんが、利用が増加すればこの懸念は広がります。クレジットカード会社と、特例の契約を結べるか、対策が求められるかもしれません。

視察の結果としては、課題はあるものの、インバウンドの多い京都においても試してみる価値はあるのではないかと感じました。今後、乗車システムの主流となるのが、ICカードなのか、クレジットカードが増えるか、スマートフォンによる乗車になるか、はたまたマイナンバーカードを使うのか、先が読めない中ですが、リース形式の契約であればリスクヘッジも可能であり、京都市にとってメリットの多い条件を検討していくことが重要だと考えます。

メリット	外国人観光客もそのまま乗車可能 →乗降客数アップ・混雑回避
	料金サービスを設定しやすい
デメリット	交通系ICカードより反応が遅い ←想定した程のストレスは感じず
	機器の導入コストが高い ←リース形式の契約も可能



福岡市地下鉄
タッチ決済乗車を視察



しつこい人は嫌われる?!

議員として活動して、またそれ以前から、地域のことにに関して様々ご相談をいただくことがあります。行政担当者と話をし、うまく改善することもあります。解決が難しかったり、不十分となることも少なくありません。

しかし、一度ダメでも、粘り強く交渉することや、要望の方向性を変えることで改善に向かうことも確かにあります。

「しつこい男は嫌われる」といいますが、良いこと、必要なことは、今後もしつこく粘り強く要望を重ねていきます。

“しつこく” 要望してきたこと

- はぐくみアプリのリニューアル**実現**
- 離合困難な電柱の撤去**実現**
- 危険な交差点のカーブミラー設置**実現** etc

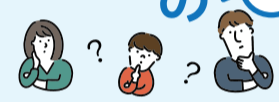


まだまだ “しつこく” 要望したいこと

- 避難場所・避難所の宿泊施設活用
- 地域コミュニティの活性化・負担軽減 etc



行政の？



ふたつの基金



いざというときの
財政調整基金

市債を返済するための
公債償還基金

自治体財政を考える上で、しばしば登場するのが**財政調整基金**と**公債償還基金**というふたつの基金です。名前から複雑な基金ですが、ふたつは役割が異なっているため、分けて考えなければなりません。極めて簡単にいえば、**“念のため” に貯める財政調整基金**と、**“借金返済のため” に貯める公債償還基金**です。

財政調整基金は災害などが発生した際に機動的に対応するために貯めるとされている基金です。京都市ではこれが枯渇しており、コロナ禍の際には各自治体が独自支援を行うなか、「無い袖は振れない」状態になっていました。

公債償還基金は、発行した20年後、30年後等に一括して市債を返済するために積み立てている基金です。これを返済以外の目的で取り崩して使い込めば、借金が返せなくなります。この基金が枯渇して、それでも毎年の赤字が重なればわずか数年で財政破綻のレッテルを貼られることになります。

枯渇していた財政調整基金ですが、職員の給料カットにより50億円積み立てることが出来ました。私から求めてきたのは、この虎の子の基金を、市民・事業者が天井のない物価高騰にあえぐ今こそ、使うべきではないか、ということです。職員の尽力により捻出した基金を、**伝わる形で市民に還元することこそ、市政運営に理解を求める第一歩**として必要だと考えます。

山科 魅力発信

公園って大切だね！

長男と東野公園で遊んでいたところ、立派な雄のかぶとむしを発見しました。以前の魅力発信でも書いたように、自然の近さが山科の大きな魅力ですが、まちの真ん中の公園で憧れの昆虫に出会えたことには驚きました。

不動産会社が実施した調査では、子育て施策を上回って、子育てに良いまちに求められたのが公園でした。今後、子どもから、若い世代、高齢者まで好まれるまちづくりには公園はなくてはなりません。

魅力的な遊具、安全なトイレ、公園愛護協力会についてなど、公園について積極的に要望していきます。



CHECK!



山科でともに活動しております

衆議院議員
まえはら 誠司

YouTubeで
国政報告配信中▶▶

府議会議員
かじわら 英樹

YouTube